



酒井家御定目
之

9

7 3

2361



門 保 3
號 2361
卷

士志正改書



一 今度思ふに一くしたる書郡々各中少くも自今以後某君
中合字と書ふとみ悪く改名を古の忠臣義士も而して某も
明君賢臣の節ともあつた後代も君臣たふ能たりし事いふ
振ふしと書ふも存心者も某うけん底を能く推察し改めざる加
ふ見詰事柄中亦死に勿論各もその心要に於て
賢の君と稱すの諫を求めり況某と此の志先祖の積善小
より君位より名の上小岳はいつた生質不肖にして君たる道に
違ひ名の上小賢人半と稱す忍び入る某乃以て然る味事
大小小大の心も宜しとぬ又い名を某と書ふは其を悪くして

同往也中半小結向不字同為人より方アヤ去有いんそ不氏又元
来已之支智小誇ア名利の心源一と不字一と人の中をそを奪ふ事
籍を元扱ひわく文字を知古半大端、竟い人の人を侮りてふい、
しゆの節に改め支智ありしよふ支應も有く、此の好き、根更之
がゆ大其仁義の心す、一と侮り盗人乃行流、いれいれを扱舞
不字の人の劣アヤ中いそわ、或は詩文を傳り或は書籍を既て読小
日と涉れ半、いんそ一尙應は、い何の益もそ、まは、今、
中、後、有、を、一、侮、大、を、い、そ、一、い、そ、一、同、い、存、を、今、日、の、道、を、人、に、生、を
一、向、去、是、を、不、知、不、行、り、て、一、偏、小、會、歎、の、目、根、を、は、れ、け、朝、夕、衣、食、の
と、多、利、如、物、と、心、は、ね、く、修、行、の、法、に、心、身、の、二、支、と、一、心、の、邪、心
方、小、行、而、一、善、惡、は、等、一、吟、誦、を、改、心、と、い、や、て、身、を、治、る、古、の、賢、人、君
子、も、及、ひ、又、い、そ、人、の、心、愈、決、定、を、聖、人、も、い、わ、る、道、す、い、ん、そ、不、字、同、い、物、
の、法、す、一、は、わ、く、字、同、い、し、物、を、一、い、ん、そ、一、ま、行、あ、ら、ね、い、書、義、
一、と、古、一、重、賢、一、法、を、身、を、行、と、て、心、身、の、二、支、と、せ、ん、為、す、れ、い、小、字
一、書、近、思、縁、の、一、い、と、熟、強、一、一、余、力、は、は、い、經、林、も、及、一、義
一、理、と、為、一、字、一、句、と、今、日、の、よ、ふ、一、い、あ、く、一、一、修、行、一、為、法、は、い、そ、一、い、の、字
一、同、一、一、一、一、一、書、籍、余、り、不、入、半、行、一、拾、心、一、の、人、精、力、と、わ、く
一、一、い、い、小、字、一、一、書、近、思、縁、計、一、一、能、け、り、去、を、取、一、一、氣、根、が、中、い、い、一、一、半、の
一、一、九、拾、の、人、一、一、一、方、改、を、衰、去、一、一、い、一、一、大、字、論、讀、と、い、も、一、一、又、一、一、書、讀、一、一、も
一、一、自、一、一、一、一、一、熱、後、改、一、一、一、一、い、一、一、人、の、物、讀、一、一、一、一、一、一、同、半、一、一、一、一、一、一、同、必、一、一、

文字のふくまひまは一日ぬた命の内は道と候りぬれは
せしる申雙もくも有る存命の大言もくも人々も前座候は
とせりまはるりゆくは志も士は勤孝誠行はる候は

一 名父母は孝順をたらし兄弟は友愛をたらし親族を敬ふ
つた節目と違ひぬ此の中は候軍小は信をたらし
心腹小信とふ枝取小は情態とふかき是れ小は約束候は
心懸むは石中も孝同は改りし重賢の書は皆是等の會談
某うは古と書しぬ不及事よ

一 家中に士者も不悔の義をたらし一云一は士の乃不
後ぬまふそは節義の候りぬは信と不云ぬ私と不稱心

ありておの飾りなく他はたふ礼礼候中々よふ不福中と不慢
か約諾と不違人の患難と名は替甲斐く友取母一は假令
小と下さ候の候も物取悪は中々も乃福小も不取取を
己う首と削らるたは海も中々もせんて死場を二足も
理とせんくも心法石のくもぬわも温か意をふと物
の喜と知り人小情もそは義の士も中々も平生心懸
目とともはる誠は古人の謂ふ辭せも死はくも

一 士は中を忠義を信人小自信者一は世治のくも
小て物公悪友は中士の服従小はくも小は不若候は
自信小はくも邪智格弟さくも世治賢くも立止奉止
人若か

奢平の^士変と^士悔のめ^士海^士中^士俣^士河^士は^士ふ^士ん^士帝^士一^士變^士は^士た^士は
系^士令^士の^士系^士人^士と^士上^士存^士と^士あり^士こ^士り^士存^士なり^士て^士り^士中^士に^士復^士位^士列^士選
ひ^士の^士大^士武^士代^士と^士なり^士と^士上^士存^士なり^士り^士中^士に^士復^士位^士一^士姓^士と^士二^士姓^士と^士及^士神^士選
ひ^士の^士上^士存^士も^士角^士も^士に^士復^士位^士と^士あり^士は^士た^士と^士い^士ひ^士方^士人^士と^士なり^士人^士は^士方^士と^士なり
た^士り^士と^士布^士と^士なり^士て^士は^士こ^士が^士供^士白^士り^士も^士きた^士に^士但^士せ^士踏^士ひ^士さ^士ん^士の^士婦^士も^士ひ^士ら^士し^士も
去^士り^士た^士は^士法^士中^士不^士て^士も^士は^士左^士右^士の^士系^士人^士と^士なり^士法^士中^士引^士下^士て^士い^士て
た^士り^士と^士た^士り^士も^士又^士も^士た^士り^士は^士版^士を^士列^士る^士家^士老^士大^士政^士の^士老^士と^士なり
家^士中^士の^士歴^士と^士なり^士ぬ^士ぬ^士

一 當代士の風俗質を朴素の^士意味^士なく^士和^士尺^士と^士飾^士り^士も^士方^士と^士を^士不^士持^士り^士
は^士家^士同^士列^士又^士は^士中^士軍^士の^士老^士不^士對^士り^士て^士一^士入^士り^士位^士不^士れ^士編^士ひ^士編^士不^士飾^士り^士る

本人形のとく^士及^士帛^士巾^士巾^士如^士原^士六^士テ^士衣^士衣^士なり^士は^士余^士行^士若^士号^士加^士條^士業^士
夫^士と^士士^士の^士他^士法^士不^士け^士ひ^士は^士家^士中^士不^士り^士不^士不^士士^士六^士も^士原^士り^士る^士方^士と^士引^士下^士て^士る
法^士中^士の^士法^士方^士を^士遠^士化^士不^士形^士を^士け^士遠^士化^士方^士と^士飾^士不^士心^士を^士し^士る^士を^士載^士せ^士
る^士は^士他^士中^士周^士の^士後^士に^士士^士不^士て^士も^士耳^士を^士こ^士り^士て^士必^士對^士面^士り^士る^士は^士整^士り^士ぬ^士
も^士の^士時^士耳^士不^士れ^士髪^士と^士洗^士ひ^士て^士も^士不^士梳^士り^士ぬ^士も^士不^士食^士り^士る^士は^士時^士耳^士不^士れ^士は^士さ^士
食^士と^士は^士こ^士ら^士り^士と^士時^士の^士天^士子^士成^士王^士の^士伯^士父^士と^士り^士天下^士の^士振^士政^士不^士て^士れ^士り^士
も^士せ^士大^士整^士ひ^士と^士志^士す^士る^士形^士ら^士ふ^士か^士と^士り^士は^士物^士形^士を^士遠^士化^士不^士形^士なり^士
し^士と^士り^士一^士次^士の^士兩^士帝^士と^士い^士ひ^士る^士位^士の^士神^士と^士改^士と^士編^士と^士并^士の^士肉^士の^士蛙^士不^士
て^士は^士昔^士り^士り^士初^士漢^士た^士る^士世^士を^士と^士廣^士く^士見^士人^士情^士と^士好^士存^士不^士志^士不^士は^士は^士蘭^士和^士
む^士り^士と^士り^士九^士加^士り^士振^士政^士不^士某^士の^士家^士志^士は^士復^士之^士遠^士化^士不^士形^士

事、今もも箇ねがさ度との事

一 此中の士、倚羅と云ふ好むるも、ち力刀と見れ、立と云ふも、さかたは位、
如く、兼おては、は、は、は、と、常伴の衣、お、お、の、後、お、と、兼、お、と、か、く、
兼、お、お、越、と、云、は、い、ま、は、但、も、候、ご、う、衣、裳、の、式、を、別、紙、に、定、ま、ら、ぬ、

一 此、他、半、五、好、早、亮、見、多、と、云、は、復、ひ、ぬ、は、ま、ま、兼、お、越、と、
ま、ま、は、但、も、候、ご、う、衣、裳、の、式、を、別、紙、に、定、ま、ら、ぬ、

一 衣、食、領、の、亦、或、士、に、も、や、或、ま、い、言、用、定、て、亦、件、物、少、く、い、ま、亦、常、用、
と、思、お、い、各、別、丈、と、判、立、物、と、云、は、結、構、を、物、一、色、不、入、半、返、と、云、
の、物、用、定、と、云、は、は、ら、と、と、云、は、は、ら、と、云、は、は、ら、と、云、は、は、ら、と、云、
何、乃、判、立、中、候、と、云、は、世、小、文、家、お、い、ひ、お、い、ひ、お、い、ひ、お、い、ひ、お、い、ひ、

一向、構、り、ん、と、結、向、心、意、来、り、ふ、と、存、

一 此、中、の、士、候、は、候、と、云、は、法、半、も、限、お、意、お、致、し、お、納、し、も、意、お、
と、云、は、金、根、も、或、い、用、と、加、減、し、し、と、云、は、は、ら、と、云、は、は、ら、と、云、
他、人、と、も、存、と、云、は、志、の、内、に、生、意、致、さ、ら、ぬ、り、候、は、候、は、候、の、候、や、
自、り、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、は、候、
能、ら、も、士、の、申、と、云、は、と、云、は、と、云、は、と、云、は、と、云、は、と、云、は、
度、も、候、は、候、と、云、は、候、は、候、と、云、は、候、は、候、と、云、は、候、は、候、
別、紙、に、い、ま、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、
此、右、も、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、
候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、候、と、云、は、

一古より臣民とて天下の士農工商は安んずるを志すべし
は布の織と骨の中羊の毛を以て織るに農耕化と勤く米穀を出し之
或は梓道と云く宝尾をかき入或は陶治となりて器物を作り高
貴賈と云ふに由りて是は士農工商の用なりし中は穀
理と云ふ一則とは士乃職の定中羊を以て義理と云く物多香なり
真なり此の如く彼之民の布化といふ事皆りる急度なりと云ふ人定
めりしに由りて是の如くは義理と云く布目天下に布化びる人
廉恥の心なくぬ事お欺きし事お欺ひおけしと畏憚るる事と云く
彼の子と父と父とせしは君と君とせしは礼も及び申す事
夫れ士と云く者と云く義理と云く世彼之民の上の事平せし
れめりたりたり百姓所人として海に押下りたる大波等と云ふ
此の申す事士に職はも家前の事なりぬ事不尚代士と云く
他と別欲み統中流く令後と會家所余對持柄と云くおと押掃
半有く或馬と好み或は及くを救済の所なりし時別と心忍
志しきあり死責は作樂は仕承りて是はことある會後及及び又
こそなりし大根に勝りて者なりし人報ひし事と云ふ人
法平と月も勝り奉り志しぬる園根の人若し利害との事無後
取義理の事にかかりし跡を物なりし別中にも欲して者なりし
かたりて一篇に心すん終小なりし中も義理は立中しりし義理
と云ふ事別欲の事と云く別欲は事なりし義理は事なりし義理は事

以名今度之友之有里公

右世書ハ酒井雅尔改辰辰月等出紀出家中ノ訪士ハ以修後ハ
出定月ノ字也乃去古来何人ハ好大將以定重以書之字ハ
亦乃定之也

寛文十一年亥年八月吉日

善安
海

